



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

震災対策

高台の宅地確保 状況は 農地転用の予定見えず

問 高台にある国営農地などの宅地転用や、弘野団地西側、また西南大規模公園内の未活用のままの県管理地の活用に向けての状況は。

答 大西町長

震災前の農地転用については、7年前に当町が津波の新想定を受けてから数年、集中的に取組んだが、残念ながら越えられない壁があった。

その後、若干の制度改正はあったが、当町が望むような大々的な農地転用による宅地化には至っていない。引き続き粘り強く声を挙げていくが、現状、制度改革の予定は見えていない。

弘野の県有地が有望地との認識は今も変わっていない。ここの宅地化は区域除外の必要があり、今、県がその検討を行っているが、具体的なことは、まだまだ協議も検討も要する状況。

公園内の未活用地も、検討して頂いており、四万十市と黒潮町で構成の西南大規模公園建設促進期成会にも一定、案も示して頂いている状況だ。

行政サービス

多すぎる超勤 認識は

業務量の平準化が必要

問 超勤が多すぎるとの声は、以前から多くある。超勤についての現状把握と認識は。

答 大西町長

通常業務に加え、津波高の新想定直後から地域担当制で地域に出向くなど、かなり業務過多な時期もあった。

この超勤は、当町の組織全体の数年来の大きなテーマになっており、これを解消すべく、例えばノー残業デイの設定や出勤の管理など、一段一段と進んでいる。

これらにより、ピーク時よりは少し緩やかになっているという認識している。ただ、働き方改革も叫ばれる中、指摘のようなケースがあるならば、精査し、平準化した業務量で組織の配置をする必要があり、もう一歩踏み込んで是正するよう努める。



県有地のある弘野の丘陵地（中央部）を海側から望む。丘陵の右手には町営住宅弘野団地が見える。手前の川は加持川

問 情報共有の促進、文書の検索時間の短縮等の業務効率化等を目的として、新庁舎の移転を好機に導入したファイリングシステムの現況は。

答 松田副町長

文書管理の在り方・目標づくりが第1。第2は取扱規程の整備。第3は進捗状況の点検評価。第4は、それを全体で回していく組織づくり。

これらを、平成30年度から3年間、着実にやっていくとしており、理解頂けるレベルに早々に到達できると思っている。

問 行政サービスは、法令の定めに従い行うものと考えているが、要綱、要領、手順書など職務上必要なものの整備は十分か。また、3年前に未整備だった設計変更に関する事務処理要領の整備は。

答 松田副町長

要綱や要領等は、適宜必要に応じて制定改廃を行い、整備している。

また、設計変更に関する事務要領については、県の同要領の読み替えで事が足りる状況なので、検討会でも整備しないと、整備していない。



ファイリングシステム導入前後の窓口。上は移転直前の旧庁舎、下は新庁舎で机上がすっきりと…

